

## 日本産業規格（JIS）改正の概要

2022年4月に、次の表に示す日本産業規格（JIS）が改正されたので、その概要を紹介する。

### 改正発行 JIS

規格番号	規格名称	対応国際規格（一致程度）
JIS B 1512-3	転がり軸受—主要寸法—第3部：円すいころ軸受	ISO 355 : 2019, Rolling bearings—Tapered roller bearings—Boundary dimensions and series designations (MOD)

### 改正の概要

#### JIS B 1512-3（転がり軸受—主要寸法—第3部：円すいころ軸受）

##### 1. 改正の背景

転がり軸受の主要寸法に関する JIS として JIS B 1512 が 1965 年に制定され、1968 年、1975 年、1986 年、1995 年及び 2000 年に改正された。その後、2011 年には、軸受形式別の国際規格との整合性を考慮し、旧規格を 6 部に分割して JIS B 1512-1～JIS B 1512-6 とした。その際、円すいころ軸受の主要寸法は JIS B 1512-3（以下、旧規格という。）として新たに制定された。

2019 年 5 月に、対応国際規格である ISO 355, Rolling bearings—Tapered roller bearings—Boundary dimensions and series designations が改訂されたため、その改訂内容を反映して、JIS の改正を行った。

##### 2. 主な改正事項

###### ● 記号（箇条 4）

- 1) 複列外輪の幅又は間座付き背面組合せ軸受の外輪組合せ幅の記号を  $C_1$  から  $C_2$  に変更した。また、外輪のフランジ幅の記号を  $C_2$  から  $C_1$  に変更した。さらに、外輪フランジ付き単列円すいころ軸受の組立幅の記号  $T_F$  を追加した。
- 2) 旧規格では、円すいころ軸受の接触角をカップアングルの半分であると示していたが、対応国際規格に合わせ、「軸受中心軸に垂直な平面（ラジアル平面）と、軌道輪から転動体に伝わる合力とのなす角度」に基づく表記方法に変更した。

###### ● 主要寸法（箇条 6）

- 1) 旧規格では、単列円すいころ軸受の主要寸法表及び一部の複列及び組合せ円すいころ軸受だけに旧寸法系列を併記していたが、全ての対象軸受に旧寸法系列を併記した。
- 2) 旧規格では、外輪のフランジ外径及び外輪のフランジ幅だけを規定していたが、外輪フランジ付き単列円すいころ軸受の主要寸法表の形式として規定した。
- 3) 表 6 に  $d=85$ ,  $D=130$ ,  $T=30$ （寸法系列 4CD）及び表 15 に  $d=85$ ,  $D=130$ ,  $T_F=11.5$ （寸法系列 4CD）の主要寸法を追加した。

###### ● 附属書 JA

- 1) 円すいころ軸受の寸法系列記号は、本規格で規定する以外に、旧寸法系列もある。むしろ日本の取引では旧寸法系列記号が多く使われている。そのため、利用者の便宜を図るため、附属書 JA で円すいころ軸受の寸法系列記号と旧寸法系列記号とを説明した。

以上